

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

NNA 配信のネットニュースより

大連市で国産化か、日産のインフィニティ

(12月)26日付第一財經日報は関係者の話として、日産自動車が出資する同社の高級車ブランド「インフィニティ(英菲尼迪)」を遼寧省大連市で生産すると伝えた。すでに建設用地の選定が完了しているという。建設地が決まったことで、今後は中国国産化に向けた動きが加速するとの見方が出ている。

関係者によると、インフィニティの大連生産に関する調印式典が11月24日に行われた。日産系の東風日産乗用車にインフィニティ事業部を設け、事業展開する。

大連市にまた新しい自動車完成工場ができるとのニュースがまず日本で流れた。日産が中国の東風自動車と合併で作った「東風日産」が大連で日産の海外用高級車ブランド・インフィニティを生産することが決まったとのこと。

年明けの1月になって、大連でもそのニュースが流れた。昨年末、大連市の保税区政府と東風日産乗用車有限公司が、同区の自動車産業園區に工場建設することに関する調印を行い、現在、整地工事に入っているということが、現場写真付きで報道された。

昨年、日本で報道されたスバル・富士重工業と奇瑞自動車の合併会社設立は、中央政府内で問題があるのか、中国では未だにはっきりしたことが発表されていない。今回の東風日産の話は、すでにある合併企業の新工場が大連市にできるもので、中央政府等の難しい許可は必要なく、すぐに大連でも新聞報道されたのだろう。

立地する場所は、大連港のコンテナターミナルがある大窯湾に面した場所で、中国民族系自動車メーカー「奇瑞（チェリー）」の工場の西隣。大連市保税区政府と東風日産でプロジェクトチームを作り整備を進めているとのこと。1月から4月にかけて整地工事を終え、その後、水道・電気や暖房などの基礎的なインフラの整備を行う。

このプロジェクトの総投資額は、50億元で、面積は1.34平方キロ、工場設計生産能力は年間30万台。2014年までに第1期の工事を完成させ、2016年に第2期工事を終える計画。

大連市の試算では、この計画が順調に進み、インフィニティのSUV車を年間30万台、その販売価格が50万元と試算すれば、そのすべてを売り上げた場合税収が150億元となると予想されている。さらに、東風日産の工場のための自動車部品企業向け産業園を4平方キロ整備し、70社程度の自動車関連企業や物流施設を誘致したいと考えているらしい。

東風日産が大連市を選んだ理由としては、港に近く部品輸入等についての物流メリットが考えられる。また、奇瑞汽車の工場設置や富士重工業が奇瑞汽車と計画するスバルブランド車の合併生産計画などで、すでに部品メーカーが10社以上進出、初期のサプライチェーンが整いつつあることも好材料となった。

インフィニティの大連生産に市政府が各種の優遇措置を打ち出すことも決まっている模様で、大連市が取り組んでいる自動車産業による経済振興策が、また一つ大きな実を結んだ。